

星座〔おうし座・うしかい座〕

夜空に瞬く星々は、現在では、88の星座のいずれか一つに属することとされています。そのうち、ウシの名を冠する星座は、おうし座とうしかい座の二つです。

おうし座は、天球上の太陽の通り道である黄道に配された黄道十二星座の一つに数えられており、ラテン語による正式名称は Taurus です。古くは繁栄と富の象徴としての古代オリエントの牛信仰に由来すると考えられ、ギリシャ神話では、ゼウスが化けた雄牛とされています。ちょうど雄牛の肩のあたりにあるプレアデス星団は、肉眼でも5～7個の輝く星の集まりを見ることができ、最も有名な星団の一つです。日本では、一つに集まっていることを表す「すばる（統ばる）」といい、「昴」の字が充てられています。なお、星占いは、黄道十二星座そのものではなく、誕生日の太陽の位置が黄道上を十二分割した領域（十二宮）と太陽、月や惑星の位置関係で占うものです。

うしかい座は、日本では春から初夏にかけてみることが出来る星座で、ラテン語による正式名は Boötes といいます。おうし座との関係はとくになく、この星座に描かれた人物についてもゼウスの息子アルカス、アッティカの王であるイーカリオス、巨人アトラスなど諸説あります。うしかい座が描かれた切手は少ないですが、日本で2011年から2013年にかけて発行された北半球にみられる星座を取り上げた星座シリーズの第3集にみることが出来ます。